

朋友

第27号

2021 (令和3) 年
11月1日発行

発行所

京都市下京区堀川通花屋町下ル
仏教壮年会連盟広報委員会

題字：理事長 倉石 功

「朋友」とは、同信のなかま。
2008 (平成20) 年4月の仏教
壮年会連盟発足にあたり、
仏社会員が力を合わせ、とも
に歩を進めていこうという
願いから名づけられました。

おらほのお寺から私のお寺へ

仏教壮年会連盟講師

足利

一之



【2つの復興事業】

東北教区宮城組専能寺^{せんのうじ}では、東日本大震災から3年後の2014 (平成26) 年より本堂修復・山門再建等の復興事業を5ヶ年計画でスタート。同年、実践経験豊かな北海道教区の連研講師陣の協力を仰ぎ、復興企画「専能寺・門徒推進員養成連続研修会 (寺連研)」をスタート。門徒総代会、仏教壮年会、仏教婦人会員等20名を超す門信徒が参加し、2016 (平成28) 年10月、15回の研修を終え、参加者14名が連研履修者となり、5名の壮年会員が本山中で中央教修を受

講し、昭和60年代以来30年ぶりに門徒推進員の誕生を迎えました。

【おらほのお寺】

仙台市沿岸部の蒲生^{がも}の地で、400有余年の歴史を刻む専能寺。地域を分断する七北田川^{ななきたがわ}の南北で、門信徒の意識の相違を垣間見ることはありません。

仙台港側の北側地域には、氏神として先祖代々守られてきた神社があり、「私たちは氏子として地元の神社を守る。お寺はあんだら (あなたたち川南側) のお寺だべ」という感覚。そんな意識や言葉に触れた

際、お寺側に住む壮年会の門徒さんが「あんだらのお寺でねえべ、おらほ (私たち) のお寺だべ」と正しくなっていました。

【なぜ連研か】

そんな感覚の違いをお互いに話すことで共有し、門信徒一人一人にとって「おらほのお寺」と言えるような学びの場が大切と、話し合い法座を中心に据える「連研」開催に向けて壮年会員と共に取り組んできましたが、東日本大震災で取え無く頓挫。甚大な津波災害により人が集まれなくなった専能寺に「地域の復興はお寺から」と寺院活動復興に向け尽力くださった北海道教区の有志の方々。次は人の心の繋がりをと「寺



連研」開催に全面的に協力してくださいました。

【私のお寺と言えるように】

多様なテーマの基、各々が疑問や悩み、不安や悲しみ等を言葉にする営みの中、互いの意見に耳を傾け、問いを共有できる場が話し合い法座。連研を通し「問いを共有できる場」があるという事が心の平穏を生み出す手掛かりとなり、門信徒一人一人の生活の中に求められるお寺の姿なのではないかと、私自身学ばせていただく機会となりました。

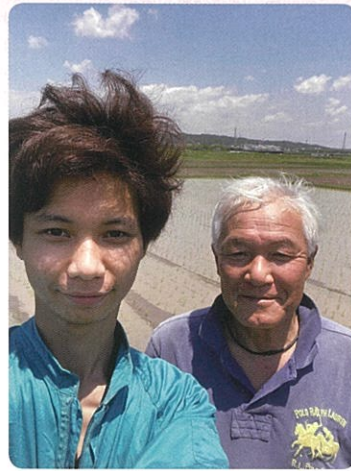
住職にとっても門徒さんにとっても「私のお寺」と言える環境を、念仏の朋友として共に作り続けていきたいと願うのです。



素晴らしいご縁をいただきました

仏教壮年会連盟理事／兵庫教区仏教壮年会連盟理事長

戸田 勲 とだ いさお



戸田勲さんとオカピヨオ君

ミャンマーからの留学生「オカピヨオ君」が、「田植え」を手伝いに、私が住んでいる三木へ来てくれました。

きっかけは、兵庫教区「御同朋の社会をめざす運動」委員会で、このご時世の中、大学生が非常に困っているというお話でした。

私は、会議中まったく案が出てきませんでしたが、ふと「たしか教区仏壮のスローガンの一つに『できることから始めよう』があったことに気づき考え直すと、重たい気分から解放され、教区担当者にすぐに連絡。「今から私の田んぼで田植えが始まります。オペレーターの手として働いてもらおうのはどうでしょうか」と提案をすると、すぐに手配してくれました。「日本人ではなく留学生なの

ですがOKでしょうか？」と。そりゃ、留学生も困っているだろう、とOKしました。話は進み、ミャンマーの留学生を支援しているNPO団体の方を紹介され、あとはその方とのやり取りでした。やり取りが進み、オカピヨオ君と初対面。田植えは初めてとのことでしたが、良く働いてくれました。私も長年1人で田植えをしており、「体キツク」て…大助かりでした！

決して支援ではありません。田植え作業の「労働と報酬」。小さいけれど経済活動です。仕事は、はかどりの私の体も楽。オカピヨオ君は現金を手に入れる。お互い様のwin-winです。来年、オカピヨオ君が来れなくても、また学生さんと田植え仕事を一緒にしたいと、今そう思っています。



田植え機に乗るオカピヨオ君

御同朋の社会をめざす運動

北海道教区根室組本覚寺
御同朋の社会をめざす運動中央委員会委員長

加藤 泰和 かとう たいわ



宗門では、「あらゆる人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝え、自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する」ことを理念として、2012(平成24)年度より「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)を推進しています。しかし2020(令和2)年度からの第4期は新型コロナウイルスの感染拡大に見舞われ、実践運動の推進も全国の各寺院の活動や仏教壮年会の活動も大きな影響を受けることとなりました。そのようなかで兵庫教区の仏教壮年会連盟から嬉しい実践が報告されました。

兵庫教区の戸田勲理事長が参加された教区の実践運動委員会の会議において「新型コロナの影響で大学生が困っている」という話題がきっかけで「大学生に田植えを手伝ってもらい、謝礼をお支払いする」という案を思いつかれたそうです。会議中は具体的な支援案がなかなか思いつかなかったそうですが、兵庫教区仏教壮年会のスローガン「できることから始めよう」を思い出して「できることいいんだ」という思いに至った時、大学生に田植えを手伝ってもらうことが浮かんだとか。

結果としてミャンマーからの留学生に田植えを手伝ってもらう事となり、戸田さんにとっても留学生のオカピヨオ君にとっても大助かりの出遇いが実現したそうです。戸田さんは「労働と報酬なので決して支援ではありません」とおっしゃいますが、「自他共に心豊かに」の理念から生まれた素晴らしい実践だと感じました。詳しくは仏教壮年会連盟のHPを是非ご覧ください。

『現代社会における念仏者と生き方』

医療法人みやざきホスピタル 副院長
宮崎 幸枝



新型コロナウイルスの感染者、死者を数え始めて1年半以上。この『朋友』の意図する「生き方」とは「念仏者ならどんな生き方をし、更にその答えがご法義にかな適っているかどうか」をここで改めて問い直す好機と捉えているように思いました。

新型コロナウイルスの重症者に限らず終末期のがん患者さんの悲嘆、恐怖、怒り、絶望に毎日接する医師、看護師等が「それに慣らされていくのがこわい」とよく聞きます。人の「死んだらどうなるか」は緩和ケア病棟の医療従事者により懇切な傾聴がなされても死の解決に到達しません。思いつくのは、大学病院の最高の特別室に入院中のがん末期の女医とその長男の会話です。「お母さん何か言いたいことはない?」。母「もう間に合わない」の一言。その女医の恵まれた人生とひき比べ、虚しい諦めの最期とのギャップに私は愕然とし

ました。人々が死を「諦め」とだけ捉えているとしたら、死期が100才でも「間に合わない」のです。今が臨終であっても「間に合う」という仏法とは、「なごりをしくおもへども、しやば娑婆の縁尽きて、ちからなくしてをはるときに、かの土へはまあるべきなり」(浄土真宗聖典・註釈版第二版P837)と唯円に答えた親鸞聖人のお言葉通り、死にたくないが死は往生浄土という本願成就のお陰です。本願は私の「生き方を問わない無条件のすく掬い」だからこそ今聞いて何一つ生き方を変えていない私も漏らさず救われるのです。掬いの受け持ちは阿弥陀様100%、私0%という信心で満点。仏法は聞く縁がなければ聞けません。もう我々は聴けました。

終末期医療ではQOL(生の質)に加えてQOD(死の質)を高める配慮、ACP(アドヴァンス・ケア・

プランニング)(Advance Care Planning)…(もしもの時に備えた話し合いと計画)をします。患者の人生の最終段階を自分らしく終わるため、患者自身が意思決定能力のあるうちに「私はこのような生き方だから、医療はここまでで良い」と。医師、看護師や家族が患者の意志を聴きます。しかしACPの場では医療の可否以上に患者自身の「生き方」が顕れます。

真宗の信心の専売特許は「しんじゆ正定聚不退転」と「平生業成」。それを目当てに当院の「ビハラの会」では真宗の法座を毎月続け27年。遂に「目的」の念仏者が誕生し、この度はそのK氏が、がんの末期に到り、ACPの対象患者になりました。彼の口から始めて聞いたのは、「この病院はお浄土の親戚の家」と言い、「精神病の難病を苦に自殺まで考えていたのに逆に病気が縁で仏縁に遇え、

精神病になつてよかった」と病院のお陰と感謝を述べ、「今は仏智の働きの中にいる」と悦ぶばかり。一同、看護師二人と私も感動の涙々でした。何時からか他の患者さんにも仏法を勧め、自信教人信の姿も見られました。「しんじつしんひつぐみ真実信心必具名号」の通り、「念仏者の生き方」は「ご恩報謝のお念仏」で完結しており、その生き方は何事、何病に遭遇しようと、もう解決済みの中で過ごし、終われる人生であることが、念仏者へのACPによって明らかになり、ご法話以上の説得力をもつて参加者に響きました。

仏法の皆様もご自分の意志をご家族と述べ合うACPを早目にされること、そのご法義が明確にもなり、ご家族の「生き方」を考える場にもなると思います。お試しください。

南無阿弥陀仏

ご親教「浄土真宗のみ教え」

南無阿彌陀仏

「われにまかせよ そのまま救う」の

弥陀のよび声

私の煩惱と仏のさとりは

本来一つゆえ

「そのまま救う」が 弥陀のよび声

ありがとう といっただいて

この愚身をまかす このままで

救い取られる 自然の浄土

仏恩報謝の お念仏

み教えを依りどころに生きる者 となり

少しづつ 執われの心を 離れます

生かされていることに 感謝して

むさぼり いかりに 流されず

穏やかな顔と 優しい言葉

喜びも 悲しみも 分かち合い

日々に 精一杯 つとめます

2021(令和3)年4月15日

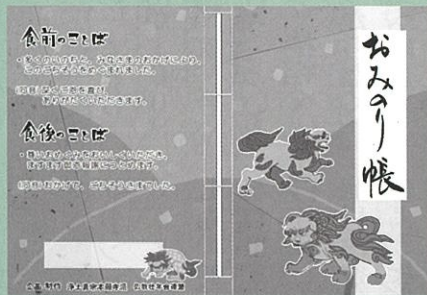
「浄土真宗のみ教え」についてのご親教

2021(令和3)年4月15日の立教開宗記念法要において、ご門主(本願寺住職)がご親教(ご法話)の中で、親鸞聖人の教えの肝要を新たにまとめた「浄土真宗のみ教え」を示されました。ご一緒に唱和し味わいましょう。

教材紹介

おみのり帳

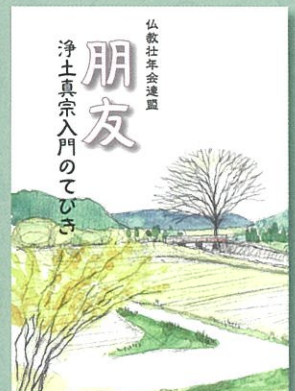
- 大好評につきおみのり帳がリニューアルされます
- リニューアルは12月予定表紙や中身の内容も少し変更となります



- 仏教壮年会連盟事務局にて販売
- 価格 100円(税込)

朋友 - 浄土真宗入門のてびき -

- 価格 800円+税
- 本願寺出版社にて販売
- ※ご注文の際は直接本願寺出版社にご連絡ください
- 作法や荘厳、仏教讃歌なども掲載
- 読物として、また研修会の教材としても、様々にご活用ください。



◆ 本年度新規単位登録名簿

2021(令和3)年4月1日～10月31日

教区	組	寺院	単位会名
長野	川中島	讃楽寺	讃楽寺仏教壮年会
福岡	柳川	光明寺	光明寺仏教壮年会
佐賀	南水	福正寺	福正寺仏教壮年会

登録単位数 2,488単位

編集後記

新潟教区 久保田 武志



「新しい生活様式」という言葉が、この新型コロナウイルスの影響で盛んに言われるようになった。テレワークで会社に行かなくても仕事ができ、リモートで飲み会、通販で買い物、食事は持ち帰りかデリバリー……。これが新しい生活様式で、今後もこれに基づいて模索していくという。これらは、新型コロナウイルス感染を回避するために強いられていることで、本当に「新しい」のだろうか。

合掌

